花炭

場所	野外炊飯場
時間	1 時間～ 1 時間 30 分
値段	料金表参照
季節	年間
人数	何人でも

プログラムの概要・ねらい

木の実や木片、折り紙などを炭化させて、真っ黒な趣深い花炭を作る。ビンやケースに入れて飾ったり、綿に載せて部屋のインテリアにもできる。なぜ灰にならずに炭になるのか？炎と酸素の関係についても同時に学ぶことができる。

難易度：★★★（高）

準備物

【利 用 者】軍手、新聞紙、ライター、缶、
持ち帰るためのケース、救急用品
活動に適した服装
炭にしたいもの（木の実等）

【自然の家】薪

①準備

別紙「野外炊飯（準備・片付け）」を参照し、事前準備をする。
野外炊飯場で道具を確認する。薪※を受け取る。　※実施途中で薪が足りなくなる場合は、スタッフへ連絡する。
所内や森で炭にする木の実などを探しておく。割り箸や肉厚の木の葉などでも炭にすることができる。
また、厚紙などで鶴などを折って、炭にすることもできる。

②実施の流れ

【時間】

0:00　準備した木の実などを缶の中に入れ（写真①）、
缶のふたを閉める。（写真②）

0:15　かまどに火を起こす。（プログラムシート「薪割り」「火付け」参照）
缶を火の上にかける。

0:40　缶の穴から白い煙が出始める。（写真③）
煙が出なくなるまで火にかけ続ける。
※火はあまり強くせずに、ゆっくりと木の実などから水分を抜く。
※白い煙は、水蒸気なのでこれが止まるまでは必ず火にかけておく。

0:50　煙が出なくなったら、火から下ろして缶が冷め切るまで冷やしておく。
※開けてしまうと酸素が炭に触れ、炭になったものが全て灰になってしまうので注意する。
※時間的には10分を目安にする。

1:00　缶が冷えたらふたを開けると、きれいな花炭ができている。（写真④）
そっと手で持ち、ビンや綿の上に移動する。
※炭は崩れやすいので、十分に注意して移動する。

1:10　片付け、終了

※自分なりのタイトルを付けて、みんなで作品を紹介する場を持つとよい。
※注意が必要な動植物があるので確認し、スズメバチや毒ヘビに遭遇した場合の注意を徹底する。（別紙　注意が必要な動植物参照）

①

②

③

④

③後片付け

別紙「野外炊飯（準備・片付け）」を参照し、後片付けをしてスタッフの確認を受ける。薪の束数を申告する。
★かまどに水を掛けて掃除するとレンガが割れてしまうので、絶対に行わない。

2024/3/01 改定